

7
2019

三重病院

ニュースレター

news letter vol.239



- 01 小児神経科のご紹介です
- 02 臨床研究部からのお便り—第15回—
Honda HEAT来院! / 通所支援事業
アレルギー学会の報告
- 03 「やまばとギャラリー」情報コーナー
5病棟の生活のひとこま④
異動のごあいさつ
- 04 Medical Safety Letter 安全便り〈7月〉
外来からのお知らせ / 外来診察のご案内

小児神経科のご紹介です

小児神経科とはあまりなじみのない科名であると思いますが、以前より院外標ぼうも可能になったこともあり、今回のこの紙面をお借りして紹介いたします。

小児神経学会のホームページをみますと、小児神経科とは、〈けいれん、運動・知能・感覚・行動または言葉の障害など脳、神経、筋に何らかの異常がある小児の診断、治療、指導を行う科です〉とあります。また具体的には〈ひきつけた、意識がおかしい、頭を痛がる、頭の形がおかしい、首のすわりや歩くのが遅い、ふらふらする、よく転ぶ、歩き方がおかしい、手足の力が入らない、まぶたが下がる、眼球の動きがおかしい、食べ物にむせる、ことばが遅い、しゃべらなくなった、手や首を変な風に動かす、落ち着きがない、お友達とのトラブルが多い、集団でみんなと同じ行動ができない、思ったことと違うことがおこると手がつけられないほど泣いたり怒ったりする、勉強についていけない、日中の居眠りが多いなどがある場合に脳・神経・筋肉の病気（障害）が疑われます〉とも記載されています。

現・学会理事長の岡明先生がホームページに書かれた記事を見ると〈対象とする疾患は、てんかん、代謝性疾患、神経感染症、神経免疫、神経筋疾患、末梢神経疾患、神経変性疾患、脳性麻痺、重症心身障害児、周産期医学、知的障害、発達障害など多様であり、その手法としては神経生物学、分子遺伝学、神経病理学、電気生理学、放射線医学などが含まれます。会員は、小児科学、神経学、脳神経外科学、リハビリテーション医学、神経放射線医学、精神医学、基礎医学の背景を持っています。また、神経疾患に伴う障害を対象としますので、医療福祉制度や行政、社会医学的な側面、さらには教育の分野も含まれます〉と書かれています。そのように対象疾患は非常に広範囲にわたるもので、その診察にはお一人お一人にとても時間がかかります。当院の小児神経外来では、初診が週6人の枠がありお一人に1時間半をかけて対応しています。今までの経過などを細かくお聞きして、すでに他の病院やクリニックで診察や検査をうけておられる場合にはそれを確認して、ご本人の診察にも神経学的な評価をするため時間をかけなくてはならないので、そのような時間が必要になるのです。再診においても10～30分の診察時間で、毎日朝から夕まで診

察していても、1週間に100人診察をするのがやっとです。そのような状況でも新患は年間300人、再診は年間のべ5000人におよびます。一人の方の相談や診察が少し延長してしまうと、次の患者さんの待ち時間が多くなり苦情をいただくようなことが常態化しているのが現状です。さらには、病院内の外来や病棟関係者だけにとどまらず、教育関係者、種々の行政担当者との連携も不可欠であるため、診療以外にも時間を割くこととなります。

小児神経臨床で最近感じるのは、まず遺伝子診断と遺伝子治療がいよいよ本格的な時代を迎えてきているということです。医療自体が新しい段階に入ったと感じます。二つめは、近年需要が増えてきているASD自閉スペクトラム症、ADHD注意欠如多動症、LD学習障害などの、いわゆる発達障害の問題です。外来が閉鎖されるあるいは予約が半年以上待ちになるなどは珍しくありません。またこの領域で学校や家庭での問題が大きく医療的緊急対応が必要になるケースが一定数存在しているにもかかわらず、緊急対応する医療機関がないという現状が特に三重県では大きな問題です。最近の一部の方々のご協力においてなんとか局所的対応が可能となりましたが、三重県で小児精神科救急に対応できる施設を作ること急務です。三つめは、最近も連日報道されている東京目黒区、千葉県、札幌市で発生したことも虐待の問題です。いったん虐待を受けると、最悪の場合死亡にいたりますが、死亡せずとも大きな後遺症で脳性麻痺と同様な状態になるケースがあります。さらに死亡や寝たきりの状態にならなくとも、その後の症候性てんかん、身体障害、視力障害、知的発達の遅れ、さらに様々な対応困難な精神症状をもたらします。虐待は発生してから対応するのではなく、発生するより前に予防しなくてはならない問題で、これはもちろん医療だけで解決できるものではありません。

私自身は、依然として日々の診療において、小児神経科医として十分その役割をはたしているとはいえ、皆様にはご迷惑をおかけしていますが、今後ともよろしくお願いたします。

（小児神経科 高橋 純哉）

